



HDC

ニュースレター (報告版)

Jun. 2023
第7号

一般社団法人 全国在宅療養支援歯科診療所連絡会

<https://www.hdc-2017.com/>

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 日本老年歯科医学会第34回学術大会
- 3 第5回日本在宅医療連合学会大会
- 4 日本在宅ケアサミット2023

はじめに

三木次郎

新緑の候、野山は新緑に覆われ、活気溢れる季節の到来です。それと同時に、在宅歯科医療、在宅医療のイベントも数多く開催が予定されています。今回のNLはそれらについてフォーカスを当てていきます。

今年から、歯学教育モデル・コア・カリキュラムが改定されます。

GE (生活者) IP (多職種協働) SO (医療の社会的役割) に在宅医療の重要性が盛り込まれています。社会構造の変化により、求められる医療が変わるというメッセージです。

2023年4月入学の医学部・歯学部の学生が、2040年を見据えて学びます。卒業まで6年 (2029年)、地域で活躍するまで約10年 (2040年)。

https://www.mext.go.jp/content/20230208-mxt_igaku-000026049_00003.pdf

日本老年歯科医学会第34回学術大会

テーマ 生きるための、しあわせのための「くち」を守る

会期 :2023年6月16日 (金) ~18日 (日)

名誉大会長

羽村 章 (日本歯科大学生命歯学部高齢者歯科学 教授)

大会長

菊谷 武 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長・教授)

[\]https://confit.atlas.jp/guide/event/gero34/static/outline](https://confit.atlas.jp/guide/event/gero34/static/outline)

会場 : パシフィコ横浜(ノース)

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目1-1



大会長挨拶

第34回日本老年歯科医学会学術大会大会長 菊谷武

生きるための、しあわせのための「くち」を守る

「くち」は食べる時に、話をする時に、そして息をする時に、はたまた家族や恋人と愛を交わす時に活躍します。くちは、生きるためのそしてしあわせのための器官といえます。

私たちは、「おいしい」を伝えるこの口を、そして、天寿を全うする際に「ありがとう」を発するこの口を絶え間なく支えていかなければなりません。

生きるためのそしてしあわせのための器官である「くち」を守るために、私たちは何ができるのか、何をしなければならないのか、いま、何が足りないのか？ ともに、考えてみたいと思います。

プログラム抜粋

シンポジウム2（社会保険委員会企画）

2023年6月17日（土）9：40～11：20（100分）第1会場

超高齢社会を見据えた、歯科の公的医療保険制度のあるべき姿とは

【座長】猪原 健 菊谷 武

【演者】小嶺 祐子 猪原 健 阪口 英夫（陵北病院歯科） 石黒 幸枝

我が国の公的医療保険制度は、諸外国では除外されていることの多い歯科も包含しており、なおかつ、疾病治療型から機能管理型への移行を目指しているなど、WHOの提唱するユニバーサル・ヘルス・カバレッジの先端を走っている。しかしながら、超高齢社会の到来に伴い、持続可能な制度への転換も必要とされており、医療・生活支援ニーズへの対応との両立が急務となっている。

このような中、2024年には、医療保険・介護保険の同時改定が予定されており、社会保険委員会はこれに向けて、ワークショップを開催してきた。

この中では、より困難を抱えている人に対してしっかりと医療や生活支援を提供している歯科医療機関に、手厚い診療報酬が支払われる制度が必要、との考えのもと、現状の課題と、あるべき姿のディスカッションを行ってきた。

本シンポジウムでは、ワークショップで出された課題を提示するとともに、歯科の公的医療保険制度のあるべき姿についてディスカッションを行う。

シンポジウム12（歯科衛生士委員会企画）

2023年6月18日（日）13：50～15：10（80分）第2会場

アドバンスケアプランニング（ACP）に関わる歯科衛生士になるには～エンドオブライフケアを理解した実践へ

【座長】阪口 英夫 藤原 千尋

【演者】会田 薫子 飯田 良平 齊藤 理子

在宅歯科診療に携わる歯科衛生士が増加し、在宅での看取りやがんの終末期に関わる機会も多くなってきているが、歯科衛生士にACPが浸透していない現状がある。歯科衛生士も超高齢社会における高齢者のエンドオブライフケアに関わる職種として、意思決定支援プロセスであるACPの概念を理解しておくことが求められている。人生の最終段階にある患者とその家族に対して、歯科衛生士がどのように関わっていただけるかを考え、実践していくために必要なACPの知識とともにACPに基づいた臨床での実情をご提示いただき、歯科衛生士が今後どのような役割を果たせていただけるかをディスカッションする予定である。

関連した講演

特別講演3

「口からたべること」の臨床倫理 2023年6月18日（日）09:40～11:20(1階 G4)

箕岡 真子¹ (1. 日本臨床倫理学会 / 箕岡医院)

シンポジウム13 (大会長企画) 協賛：株式会社フードケア
2023年6月18日 (日) 14:10~15:20 (70分) 第1会場

歯科と神経変性疾患

- 【座長】 菊谷 武 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長・教授)
【演者】 梅本 丈二 (福岡大学病院摂食嚥下センター)
猪原 光 (医療法人社団 敬崇会猪原歯科・リハビリテーション科)
加藤 陽子 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)

ALS (筋萎縮性側索硬化症) は、初発症状がしゃべりにくい、飲みにくいなど口腔症状を示すことも多く。未診断のままに歯科医院を訪れることも多い。咀嚼障害に対しては、咀嚼機能に配慮した食形態の指導が必要となる。また、重症化に伴い歯の舌側転位や流涎などが生じその対応に追われる。診断されてからの生命予後は3年から5年を示す疾患であり、胃ろうなどの代替栄養や人工呼吸器の導入など命および医療倫理にかかわる多くの社会的問題を含んでくる。本シンポジウムでは、大学専門機関、地域医療を支える在宅診療での歯科からのサポートをそれぞれの立場で紹介いただく。

シンポジウム11 (大会長企画) 協賛：株式会社ロツテ
2023年6月18日 (日) 12:40~14:10 (90分) 第3会場

始まりは地域から～地域歯科医院の挑戦～

- 【座長】 五島 朋幸 (ふれあい歯科ごとう)
【演者】 粟屋 剛 (あわや歯科医院)
渡部 守 (まもる歯科)
大河 貴久 (大河歯科医院)
松岡 友輔 (松岡歯科医院)

私たち歯科医師の多くは地域で活動しています。活動地域ごとに特色があり、課題も多くあります。逆に、その地域だからこそできることもあります。

今回、各地で活躍されている4名の先生方に登壇していただきます。現在の高齢社会、地域に根付いた歯科医師としてどのような取り組みをしているのか、今後どのような取り組みをしていきたいのか、また、コミュニティーをどのように考えていくのかななどをディスカッションしていきます。

あなたの地域での活動のヒントがちりばめられているはずです。

以上紹介させていただきましたが、これはその一部で、数多くのシンポジウムがあり発表があります。この大会は現場での臨床とアカデミアとしての老年歯科医学と接点となり、ここから得る知識は将来に生かせることは、間違い無いと思います。HDCの皆様当日横浜で会えること楽しみにしています。

第5回日本在宅医療連合学会大会

第5回日本在宅医療連合学会大会

テーマ：今ここに求められる在宅医療の創造

緩和・難病そして薬・機械・人の融合

会期：2023年6月24日（土）25日（日）

大会長

中島 孝（独立行政法人国立病院機構新潟病院 院長）

会場：朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）

<https://site2.convention.co.jp/5jahcm>

海外招聘教育講演（英日同時通訳）

Shared Decision Making - the Cornerstone of Person - Centred Care

教育講演

16月25日（日）8:00～9:00 第10会場「国際会議室」（朱鷺メッセ 4階）

座長：中島 孝（独立行政法人国立病院機構 新潟病院）

三浦 久幸（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター）

演者：Härter Martin

（University Medical Center Hamburg-Eppendorf Department of Medical Psychology）

ACPだけではない！在宅医療関係者に求められる共有意思決定支援（Shared decision making:SDM）

特別シンポジウム

6月25日（日）9:10～11:10 第10会場「国際会議室」（朱鷺メッセ 4階）

座長：三浦 久幸（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター）

稲葉 一人（中京大学）

演者：後藤 友子（国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域医療連携推進部）

山下 慈（青森県立中央病院）

丸山 淳也（医療法人博愛会 穎田病院）

宮田 佳典（佐久総合病院 副院長）

橋本 淳（岡崎市民病院）

日台在宅医療国際シンポジウム（逐次通訳）

日本と台湾における在宅医療制度の行方 国際シンポジウム1

6月24日（土）8:00～9:30 第10会場「国際会議室」（朱鷺メッセ 4階）

座長：武田 俊彦（日本在宅ケアアライアンス）

余 尚儒（台湾在宅医療学会）

演者：谷口 倫子（厚生労働省 医政局 地域医療計画課 在宅医療推進室）

余 尚儒（台湾在宅医療学会）

石垣 泰則（日本在宅医療連合学会）

小倉 和也（地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク/はちのへファミリークリニック）

へき地における歯科診療の課題 シンポジウム17

6月24日(土) 14:45~16:15 第5会場「小会議室203-204」(朱鷺メッセ 2階)

座長: 猪原 健 (猪原歯科・リハビリテーション科)

渡部 守 (まもる歯科)

演者: 渡部 守 (まもる歯科)

吉川 浩 (吉川歯科クリニック)

丸岡 三沙 (まんのう町国民健康保険造田歯科診療所)

日本在宅ケアアライアンス 日本在宅ケアサミット2023 みんなが支えあうあなたの在宅ケア

日時: 2023年7月23日(日) 13:00~17:00

会場: 東京大学伊藤国際学術研究センター

伊藤謝恩ホール(文京区本郷 7-3-1)

参加対象者: 在宅ケアに関わる専門職、行政、一般市民 会費: 2,000円

申し込みはPeatixサイトからとなります。下記URLからお申し込みください。

<https://zaitakucaresummit2023.peatix.com/>

13:00 開会挨拶 新田國夫 JHHCA 理事長

祝 辞 榎本健太郎 厚生労働省医政局長

13:15 JHHCA 正会員22 団体代表登壇・挨拶

13:40 特別講演: 「かかりつけ医と終末期医療」 横倉義武 JHHCA名誉顧問

鼎 談: 横倉義武・市原美穂氏・迫田朋子氏

14:20 JHHCA 事業概要と成果報告

武田俊彦・石垣泰則・奈倉道明氏・高橋在也

休 憩

15:10 シンポジウム

「ほんとうに叶えていますか 思い・願い・望み」

看護師 : 中島朋子氏 (全国訪問看護事業協会)

歯科医師: 園田正人氏 (全国在宅療養支援歯科診療所連絡会)

薬剤師 : 宇都宮勸子氏 (全国薬剤師・在宅療養支援連絡会)

管理栄養士: 水島美保氏 (日本在宅栄養管理学会)

介護支援専門員: 坪根雅子氏 (日本介護支援専門員協会)

理学療法士: 鈴木修氏 (日本訪問リハビリテーション協会)

介護福祉士: 石本淳也氏 (日本介護福祉士会)

トータルヘルスプランナー: 木村久美子氏

(日本在宅ホスピス協会)

16:50 総括&閉会の挨拶

一般社団法人

全国在宅療養支援歯科診療所連絡会

〒277-0072

千葉県柏市つくしが丘 5-7-29

大石歯科医院内連絡会サポートセンター

電話番号:04-7176-2220 FAX 番号:04-7176-2220

電子メール: kouku-care-renrakukai@jcom.home.ne.jp

